

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 5 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 フェアネス・ラボ		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒177-0042 東京都練馬区下石神井 1-2-2 セントリーフ千川 201 号		
④責任者氏名	丸山史子	(役職名等)	代表
⑤担当者氏名	野田紅葉	(役職名等)	事務職・学習指導員指導長

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-005	⑦助成金額	90 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	学習支援活動 フェアネス スタジオ				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	練馬区立大泉中学校セミナーハウス 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 4 丁目 2 7-3 5				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

令和 7 年度におけるフェアネス・ラボの活動といたしましては、引き続き、練馬区立大泉中学校セミナーハウスを、水曜日の 19 時から 20 時半の時間帯でお借りして、中学・高校の生徒さんの学習支援を行いました。人数としては、少しずつ増え続けており、あと 1 歩で、私たちの目標としていた人数に近づいております。子供たちは、みんなそれぞれに高校受験のための勉強から、英検取得のための勉強、定期テストの点数の向上のための勉強と励んでおりました。

令和 6 年度に行っておりました、石神井公園区民交流センターでの活動は、区民交流センターの全館空調工事のため 1 年お休みをせざるをえなくなりましたが、その間も子供たちの学習意欲は止まらず、練馬区立はつらつセンターを、主に土曜日曜を、月 4,5 回ほど、特別に子供たちのために一部解放していただき、水曜日では足りない部分の補習学習を行いました

また、練馬区立大泉中学校から許可を得て準備をして参りました、不登校の児童のための検定・資格取得のための、Hop Step Jump プロジェクトも準備が徐々に整い、去年の暮れから、実際にセミナーハウスを、木曜日の 19 時から 20 時半の間にお借りして、活動を進めて参りました。不登校の生徒さんですので、通常学校に通っている水曜日の児童達とは指導の仕方も扱い方も異なりますが、おかげさまで検定・資格取得に関しての意欲が高く、特に英検に対しての意欲が高いため、実際既に英検合格者も 2,3 名出ており、満足したスタートが切れていると感じております。また、校長先生からもその活動に対してのお褒めの言葉をいただき、新たなご提案もいただいております。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	420	2	840	
高校生等	120	3.5	420	
大学生等	48	3.5	168	
学習支援員等	144	3	432	
その他	48	2	96	
合 計			1956	平均時間は 1 週間当たりの数値 延べ人数は 6 か月分

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：学習支援活動 フェアネス スタジオ

法人・団体名：特定非営利活動法人 フェアネス・ラボ

作成者 氏名：事務職・学習指導員指導長 野田紅葉

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

取り組んだ課題に関して、令和 7 年度活動報告につきまして、本法人は、様々な理由によって学習支援を必要とする子どもたちへ、本法人が行っている学習支援活動の認知を広めることに取り組みました。

まず、令和 7 年度のセミナーハウスのスタジオ活動におきまして、練馬区立大泉中学校の校長、副校長をはじめとする職員の皆様に、我々の活動目的および内容の認知として、口頭及び年 4 回制作しております、活動フライヤーの生徒への配布等を実施しました。特に本法人が重視した認知活動につきましては、夏休みに行われる補講授業にきた生徒への支援を依頼され、約 10 日間にわたり、職員の先生方と共に実施したことです。そこにおいて、補講を必要とする生徒の学習レベルおよび必要とされる支援の内容を精査し、今後のセミナーハウスの学習支援活動につなげることが出来ました。その結果、令和 8 年 1 月に行われました、冬季補習の参加も依頼され、教育委員会主催の地域未来塾への継続的参加は、事業および将来への大きな活動の支えとなりました。現在各学年の支援を必要とする生徒が集まりつつあることは、本法人の学習指導員による努力の賜物でもあると、感謝しているところです。

次に、石神井公園区民交流センターに代わり、練馬区立はつらつセンターにて、従来行ってきました学習支援活動の継続的实施を行い、現在、大学受験を目指している高校生への指導を中心に、中学生への学習指導・高校入試指導も視野に入れて活動を行っております。はつらつセンターにおける活動につきましては、本年は高校受験の生徒たちの補講支援の要望が多く、土曜・日曜も要望に応え、指導員全員が長い時間活動を支えてくれました。おかげさまで、来ていただいた受験生のほぼ全員の志望校合格を勝ち得たことは、皆様の努力の賜物であると、大変感謝しております。

2. 実施した奨学活動の詳細

練馬区立大泉中学校セミナーハウスにおける学習支援活動

① 活動内容の詳細

活動への認知の実施

- ・教員の方々へ、本法人の活動の密なる連携
- ・年 4 回を目標とするフライヤー制作および生徒への配布のお願い
- ・本法人の認知活動の一環として、夏休みに行われた補講授業の指導にての参加

練馬区立大泉中学校セミナーハウスにおける活動

- ・中学 1～3 年生の参加者について、定期テスト対策
(各生徒 10～15%の点数 UP が報告されており、活動目標も達成されつつある。
特に、本年度高校受験に合格した生徒の支援を行ったことは、メンバー一同にとって大きな達成感を得ることができた。)
- ・希望者への検定・資格取得対策
(中学生の英検取得のための学習支援活動においては、3 級、準 2 級の合格者が出ており、受験時の内申点にも貢献しました。)
- ・各学年の教員とのセミナーハウス参加生徒の共有課題についての経過報告等
- ・セミナーハウスにおける学習支援に参加した各生徒の家庭との指導内容報告及び家庭における生徒との関わりについての相談等

② 参加人数

各回平均 15.6 名

③ ご協力いただいた関係者様

校長先生・副校長先生をはじめとする練馬区立大泉中学校の教職員の皆様方
練馬区立学校教育支援センター スクールソーシャルワーカーの皆様方
各ご家庭の保護者様

練馬区立はつらつセンターにおける学習支援活動

① 活動内容の詳細

・中学生および高校生の参加者について、高校・大学受験対策。

(学習することの意義を見出してくれた子どもたちの受験目標となる高等学校及び大学のレベルが上がってきたことが結果として見られ、これは、本法人の活動意義として重きを置いていたため、その結果を大変嬉しく受け止めております。)

② 参加人数

各回平均 5 名から 10 名程度

③ ご協力いただいた関係者様

各ご家庭の保護者様
練馬区社会福祉協議会の担当者様
練馬区立学校教育支援センター スクールソーシャルワーカーの皆様方

購入した物品





以上、助成金により購入させていただきました。また、子どもたちに配布したため、写真を撮ることができなかったワーク等もございますので、ご報告申し上げます。

また、フライヤーに関しては、前年度に使用したものが大変好評だったため、前年度の物をそのまま使用しました。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

令和7年度の学習支援活動から得られたもの、それは一言で言うと、児童の持っている学習に対する意欲の高さを発見したことでした。私たち指導員は、一般的な指導の形を崩さずに、全員に漏れなく学習指導をして参りましたが、子供たちのパワーの違いによって、指導方法がそれぞれ異なってきたことを新たに感じられました。それは本活動にとってはとても素晴らしいことであるのは確かですが、指導員への指導のあり方が問われる事柄でもありました。おかげさまで中高受験生の目標は達せられましたが、逆に私たち指導員にとって大きな課題が残ったと思われます。

反省すべき点としては、AIの普及に伴い、子供たちの勉強の方法が大きく変わりつつあり、そのスピードが早いため、指導員の指導方法というものを、そのAIのスピード感に遅れないような方法で身に付けていかなくてはならないという点です。これは反省点でもあり今後の課題でもあります。

今後の発展性につきまして、今日までの、日本を含めた世界の動きが想像以上に早いため、課題として、その速さについていくためにどのような指導方法があるのか、どのような指導活動のあり方があるのか、というのは先ほども書きました通り、大きな課題ではありますが、それと同時に、その中でも、これだけの身近にいる児童たちが勉強したいと言う意欲を持ち続けている事は、今後私たちフェアネスラボの学習支援活動においての、大きな発展性を感じるものでもあります。ただし、1つの大きな課題として、今後どのようにこの世界の動きの速さに追いついて、それに負けないような新たな学習支援活動というものを編み出していくのか、というのが挙げられます。

私達フェアネス・ラボの理念の一つである、実験型・体験型の学習方法について、今後も子供たちのために必ず必要なものである、という認識が定まり、大切なもののひとつであると感じました。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

まず第一の大きな発見は、受験期の中学生・高校生の、合格に対する意欲の強さでした。我々は学習支援という形での支援を念頭に置いて、練馬区立はつらつセンターにおける支援活動を通常2時間を一単位として考えておりましたが、子供達は止められない限り、3時間でも4時間でも、勉強を続けておりました。これだけの、将来に対する希望を託した、受験という形での夢が、これほど大きなものであるとは思いませんでした。お陰様で、ほぼ全員が希望の学校に入学できましたことは、大変な喜びではありましたが、勉強に対する意欲、真剣に生きようとする気持ちは、今後の私たちの活動における大きな発見の一つとして、生かしていきたいと思います。

今年令和8年2月・3月に高校受験をして志望校に合格した生徒がおりました。その生徒はサッカーを一生懸命やっている生徒で、しかも希望した学校は偏差値が高い学校でした。英文読解が苦手な単語もなかなか書けないと言う状況の中で、フェアネス・ラボの学習支援活動に参加した児童たちの1人です。一生懸命、本当に一生懸命に勉強し、私たち指導員から見ても素晴らしい成果を挙げていた児童なので、合格したときには本当にみんなで喜びました。その児童は私のところに来て一言笑いながら、「勉強ってこんなに面白いものだと思いますでした。そしてこんなにできるようになるんだったら、もうちょっと上の学校を目指して勉強すればよかったな。」と笑いました。これは笑い話のような話なのですが努力した本人にとっても、そしてバックアップをさせていただいた私たちにとっても、とても大切な言葉ではないかとも思いました。自分たちができる範囲を自分たちで決めてしまわずに、もう少し上を目指す。もう少し広いところを目指すと言う意識を子供たちが自発的に持てるような世の中であることを願いました。

令和7年開催のクリスマス会では、ピアノが弾ける生徒さんが、他の子供たちのリクエストに応えて、クラシックを含めた3曲ほどを弾いてくれました。また、全員でクリスマス会の御馳走として、ピザを頂き、ビンゴ大会も開催いたしました。これも、本当に檜の芽会様のご支援による賜物と、大変感謝しております